

「シャクガの魅力 (2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

シャクガ(尺蛾)の仲間は種類が非常に多く、小型のものが多く、同定が非常に難しい。図鑑に載っている写真やイラストは、翅を広げた「静止姿勢」の図が多い。静止姿勢で見えているのは、翅の表である。名称(和名)も、それぞれのシャクガの特徴を、できるだけ短いことばで表現しようと苦労したものが多い。



これは「トラフツバメエダシャク」というシャクガの一種だ。和名を分析するとこうなる。

- ①-トラフ-;「虎斑」の意味。翅に虎のような紋があるという意味。
- ②-ツバメ-;「燕」の意味。翅の下部が尖っていて、ツバメの尾に似ているから。「ツバメ」とつくシャクガは他にも多い。
- ③-エダシャク;「枝尺」の意味。幼虫が木の枝のように細い種類を「エダシャク」という。その一種。つまり、この部分だけは幼虫の特徴を表している。

「トラフツバメエダシャク」は漢字では「虎斑燕枝尺」となる。漢字で書くと少し意味が通じる。このように、「成虫の特徴」と「幼虫の特徴」を組み合わせた種名(和名)は、ほかのガにも見られる。例えば、「ハスモンヨトウ(斜紋夜盗)」というガは、成虫の翅に「斜めの模様」があり、幼虫が夜間地中から這い出して作物を荒らす(盗む)という意味である。



雨上がりの森で、シダ植物の葉で休む美しいシャクガを見つけた。やはり「燕尺」の一種のようだ。



これは「ツバメアオシャク(燕青尺)」というシャクガとわかった。この写真を見てわかることは、「翅の文様」は「静止姿勢」の時にはじめて「つながる」ということである。これは他のガでも同じだ。この写真のシャクガは羽化直後のようで、翅に全く傷がなく非常に美しい個体である。



これもシャクガの一種のようだが、羽化からかなり時間が経っているようで、翅がボロボロで元の形がよくわからない。「ナミガタウスキアオシャク(波型淡黄青尺)」に似ているが、正確な同定ができなかった。